

2025年度 栃木県生協連 沖縄視察研修レポート

塩谷センター長 肥後 隆章

【目的】

沖縄戦の史跡および関連施設を多角的な視点から視察し、単なる歴史学習に留まらず、以下の三点に関する深い知見と意識変革を得ること。

1. 歴史的理の深化：沖縄戦の経緯、住民を巻き込んだ地上戦の悲劇性、および戦後日本と沖縄が直面した構造的な課題（米軍基地問題）を正確に理解すること。
2. 倫理的・感情的共感の獲得：特にひめゆり学徒隊や対馬丸事件といった若者や児童の犠牲に焦点を当て、次世代の育成を担う親世代として、戦争の非人道性に対する強い危機意識と平和へ責任を心に刻むこと。
3. 具体的な行動へ転換：研修で得た教訓を風化させることなく、職場、家庭、地域社会における平和教育の実践および、構造的な不均衡是正に向けた社会的な提言へと繋げること。

【研修日程と視察地】

沖縄本島南部から中部にかけての主要な戦跡および平和関連施設を3日間にわたり巡り、時間軸に沿って戦争の過去、戦後の現在、そして未来への教訓を考察するよう構成されている。詳細は以下の通り。

1日目 11/6(木) 『沖縄戦の全貌と若者の犠牲』

沖縄県平和祈念資料館、平和の礎、ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館など

2日目 11/7(金) 『激戦地の記憶と現在進行形の基地問題』

嘉数高地戦跡、野里（米軍基地建設現場周辺）

3日目 11/8(土) 『琉球の歴史・文化の破壊と学童疎開の悲劇』

首里城、第三二軍司令部壕、対馬丸記念館

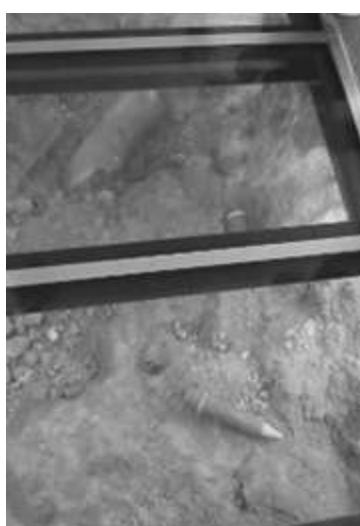


1日目 平和への祈りと犠牲の記憶

沖縄県平和祈念資料館・平和の礎

視察内容と所感：平和祈念資料館は沖縄戦に至るまでの経緯を日米双方の視点から学べたことが印象深い。特に展示されていた住民の手記や銃弾で貫通した鉄兜の現物を見た際、戦争が単なる戦略ではなく、人間の生命と生活を無慈悲に破壊する行為であることを痛感した。また、館内の静寂の中で多くの方が涙ながらに展示を見つめる姿に戦争の記憶が今も深く根付いていることを肌で感じた。「平和の礎」は国籍や軍人・民間人の区別なく犠牲者の名前が刻まれた碑が果てしなく続く広大な光景に圧倒された。その一つ一つがかけがえのない命であったことの重さを胸に刻み、青い海と空の下、平和な景色の中で犠牲者の名前に向き合うことの重要性を強く認識した。

◆学び：沖縄戦における犠牲者の多さと国籍や軍人・民間人を問わない平和への普遍的な願いを理解した。



ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館

視察内容と所感：ひめゆり平和祈念資料館を訪れ、学徒たちが残した遺品や彼女たちが過ごした日々を再現した展示を拝見した。極限の状況下で看護という重労働と過酷な環境に耐えなければならなかった彼女たちの苦悩が胸に迫った。学徒たちの笑顔の遺影や家族への手紙を目にしたとき、もし自分の子どもが同じ状況に置かれたならという想像を禁じ得ず、親として計り知れない恐怖と悲しみを感じた。彼女たちの年齢は、希望に満ちた未来を語るべき時期であり、戦争によってその未来が理不尽に断ち切られた事実は、私にとって最も非人道的な戦争の侧面として深く心に刻まれた。ひめゆりの塔に手を合わせる際、単なる歴史上の出来事としてではなく、一人の娘、一人の生徒の悲劇として捉え、平和の尊さを改めて誓った。

◆学び：極限状況下で女性や学生の体験を通じて、戦争が個々の人生に与える非人道的な影響を再認識した。同時に親として、未来を担う子どもたちの安全と平和な社会を守り継ぐことの重大な責任を痛感した。



つづく→



2日目 激戦の記憶と基地問題

嘉数高地戦跡・嘉数高台公園

視察内容と所感: 嘉数高台は沖縄戦最大の激戦地の一つであり、今も残る弾痕跡や日本軍陣地の壕跡から当時の凄惨さが伝わってきた。特に印象的だったのは、高台から見下ろす普天間飛行場とその周囲に広がる市街地との近接性である。戦跡の上に建つ展望台から現在の生活空間と米軍基地がこれほどまでに隣接している現状を目の当たりにし、沖縄戦が「過去」の出来事ではなく、土地利用と安全保障という「現在進行形の課題」として存在していることを強く認識した。戦跡の静けさと飛行場から聞こえるMV-22オスプレイの爆音が沖縄の抱える二重の構造を象徴していると感じた。

◆学び: 沖縄戦が住民生活の場と一体となって繰り広げられた地上戦であったこと、そしてその結果が戦後も続く米軍基地という構造的な問題に直結していることを深く考えた。



辺野古（米軍基地建設現場周辺）普天間飛行場・資料館
視察内容と所感: 辺野古の視察を通じて、新しい基地建設現場周辺の状況とそれが地元住民の生活や環境に与える影響について学習した。基地問題に対する複雑な感情、長年の苦悩、そして平和へ切実な願いを直接お聞きすることができた。特に騒音問題や事故の不安を語る声に、日々の生活が安全保障の問題と切り離せない状況にあることを理解し、沖縄の痛みを本土で暮らす私たち自身が「自分事」として捉えられていなかったことを反省した。地元住民は「命を削って反対し続けている」という切実な声や長年の苦悩を直接お聞き出来、県民の強い反対と環境保護の訴えにも関わらず、国家的論理が優先されるこの現実は沖縄戦以来続く「自己決定権の不在」という構造的な課題の継続を象徴していると痛感。

◆学び: 戦後の沖縄が抱える構造的な問題として米軍基地の存在と、平和への道のりがまだ続いていることを実感した。この問題は日米安保体制を支持する本土側にも責任の一端があることを認識し、公正な解決を追求することが平和への不可欠な行動であることを強く自覚した。



3日目 歴史と疎開の教訓

首里城・第三二軍司令部壕

視察内容と所感: 首里城は琉球王国の象徴であり、沖縄の歴史と文化の独自性を感じさせる場所であった。その美しい城郭の地下に日本軍の司令部壕が設けられ、結果として城自体が米軍の攻撃目標となり、文化財が破壊された事実に大きな衝撃を受けた。文化の中心地が軍事的な拠点に変えられたことは軍部の視点が住民や文化財の保護よりも軍事優先であったことを示している。司令部壕の内部の暗く狭い空間は追い詰められた当時の状況を想像させるに十分であった。

◆学び: 沖縄の独自の歴史と文化が、戦争によっていかに破壊され、また復興への努力が続けられているかを学んだ。文化の破壊は戦争の非道性を象徴するものであり、文化を守る意識こそが平和の基盤であると再認識した。



対馬丸記念館

視察内容と所感: 対馬丸事件は学童疎開の途上で発生した悲劇であり、最も胸を締め付けられる視察となった。展示された当時の写真や児童たちの名簿、そして生存者の証言を通じて、親視点からこの事件を深く見つめた。戦争から子どもたちを遠ざけようとした親の願いとその結果として子どもたちを失った親の絶望は想像を絶する。記念館で見た、救助を待つ間、海で歌を歌い続けたという子どもたちのエピソードは純粋な命が翻弄された歴史の残酷さを物語っていた。戦争の犠牲は前線だけでなく、安全を求めるはずの後方にも及び、無垢な子どもたちから未来を奪い去ったという事実を重く受け止めた。

◆学び: 沖縄戦の犠牲は戦場だけでなく、疎開という形で子どもたちにも及んだという、戦争の多面的な悲劇性を理解した。二度と子どもたちがこのような危険に晒されないように、平和教育の重要性と平和を希求し続ける大人の責任を改めて自覚した。



研修全体の総括

今回の研修を通じて得られた最大の知見は沖縄戦の記憶が戦後も続く「構造的暴力」として現在と深く連結していると感じております。沖縄戦の特異性、すなわち住民を巻き込んだ地上戦の非道性を痛感しました。特にひめゆり学徒隊や対馬丸の犠牲に見られるように「未来ある子どもや若者の命」が国家や軍の論理によって奪われた悲劇は、親世代として平和の責務を再確認しました。これらの出来事から安全保障を考える上、最も弱い立場にある人々の視点を最優先に置くべきだと捉えます。戦後80年が経過した現在も米軍基地の集中という形で戦争の傷跡が残り、土地利用、騒音、環境問題といった構造的な課題が住民の日常生活に重くのしかかっています。本土側の国民の多くが享受する安全が沖縄の「過重な負担」の上に成り立っている現状は平和とは単なる戦闘の停止ではなく、国内における地域間の不均衡の是正を通じて達成されるべきであり、継続的な公正のプロセスであることを示しています。沖縄の平和は本土に住む我々自身の問題として捉え、行動することが求められていると感じております。

この研修で得られた知見を風化させず、次世代への継承と平和教育、本土と沖縄の構造的課題に関する学習機会を創出し、日常生活の「平和を創る」に貢献していきたいと思います。

以上



よつ葉文庫 新刊登録

NO.1344 『ボタニカ』 朝井まかて 祥伝社文庫



日本の植物学の父といわれる牧野富太郎の生涯を小説にしていますが、実際の生き方、くらし方、家族の状況もそのまま描写しています。何かに打ち込む人は周りを気にせず、我が道を行く（貫く）にしても、ついつい程度があるでしょと言ってしまいそうです。生家の酒屋をつぶし、祖母（血のつながっていない）本妻、生涯生活を共にした妻が資金、家族、子ども（13人を出産し、6人が成長した）を支えたお陰で研究に没頭でき、90歳過ぎまで長生きできたように思います。

生活力がない人でも研究、発見のものすごさの方が勝ると、世間の常識が通用しない生き方を周りに認めさせてしまったのはやはり偉人なのかと思わざるを得ません。大正の関東大震災で標本を失いつつも、また第二次世界大戦中も休むことなく研究を続けて、生涯現役を貫き通した一生だったと思います。本妻の懐の広さ、深さから結婚して子だくさんの夫の家族の面倒を見るという小説のような実話が、読み手にとって主人公が三人もいるような展開になっています。

(顧問 富居)

ひめゆり学徒や沖縄戦に関する資料集。沖縄県内の21の中等学校の軍事化に至る経緯や学徒の証言、戦没者名簿など詳細な写真と資料、年表でまとめ、戦争の記憶を次世代に伝えます。A4判、257P



よつ葉文庫から沖縄を知るこの一冊
1233『沖縄戦の全学徒隊』
(ひめゆり平和記念資料館資料集4、2011年、第2版)

2025年度NPO法人民間稲作研究所公開シンポジウムのご案内

テーマ『持続的農業の推進と地域社会の展開方向』

●「令和の農業改革」ともいべき「みどり戦略」は日本農業の方向性を大きく転換させる施策です。2050年までに全農地の25%を有機農業にするという、大胆な政策だからです。環境問題が強く叫ばれ、「持続化」が大きなキーワードになっている今日、有機農業はそれを担う要の技術です。

●「みどり戦略」は農業者ばかりではなく、加工、流通、教育等々、多くの関係者を巻き込みます。日本農業の新たな発展に不可欠な政策ですので、有機農業の抱える社会経済的および技術的な問題とその解決策について、参加された皆さんと議論して見出したいと思います。

会場：コンセーレ（栃木県青年会館）(宇都宮市駒生1-1-6)
参加費：(1日) 民間稲作研究所会員 3600円
非会員 4600円

申込先：NPO法人民間稲作研究所
HP <https://www.inasaku.org>
TEL 0285-53-1133(事務局)

主催：NPO法人民間稲作研究所

第1部 「みどりの食糧システム戦略の目標達成への推進方針」

座長：谷口 吉光 [元秋田県立大学教授]

日時：2月14日(土) 13:00~17:00(受付12:10~)

- ・開会 開会あいさつ 館野 廣幸 [民間稲作研究所理事長]
- ・基調講演 講師 安岡 澄人 [元農林水産省大臣官房]
- ・現地報告 松本 嗣夫(宮城県・農業者)、服部 晃(岐阜県・農業者)、宮田 兼任(長野県・農業者)、常陸大宮市(茨城県自治体)
- ・討論・意見交換

第2部 「稲作における有機的害虫対策の展望」

座長：館野 廣幸 [農業者]

日時：2月15日(日) 9:00~12:00(受付8:30~)

- ・基調報告 日鷹 一雅 [西日本アグロエコロジー協会・元愛媛大学] 齋藤 光明・古谷 愛子 [NPO法人才リザネット]
- ・現地報告 五十畠 匠(栃木県・農業者)
- ・総合討論

後援：よつ葉生協、日本有機農業研究会

2026年度

業務関連委員会 メンバー大募集！！！

業務関連委員会って
なあに？くららに掲載する商品の事前確認や産地訪問
などをします。
よつ葉生協の商品に深く関わる活動です。

商品評価委員会

「くらら」の担当ページのチェックと、新商品の調理、評価をします。商品の原料も詳しく知ることができ、商品部の担当者と直接話もできます。調理はどなたでも簡単にできるものを交代で作りますので、気軽に参加してください。

産直委員会

「くらら」の担当ページのチェックをします。商品の良さやこだわりを商品部職員から聞き、組合員の目で見てもわかりやすいように伝わっているか検討します。お届には商品評価委員会と一緒に、新商品の試食をします。年に数回、産地訪問し、よつ葉だよりで報告します。

産直委員&職員
打ち合わせ中商品部職員から
新商品の説明を
みんなで聞きます

多くの組合員さんに参加していただきため、期間は1年間です。
学校が休みの時期や祝日も活動がありますが、状況に合わせてお休みできます。
また、以前経験された方は応募できませんので、ご了承ください。

- 日時：毎週火曜日 10:00～14:30
(終了時間は状況により前後します)
- 活動日数：月2回以上（面談時に要相談）
- 募集人数：若干名
- 活動謝礼：商品購入代金2000円補助+交通費
- 活動期間：2026年4月～2027年3月
- 場所：よつ葉生協（栃木県小山市栗宮1223）他
- 応募条件：よつ葉生協の組合員で継続的に商品を購入している人
- 締切日：2026年2月13日（金）
- お問い合わせ：よつ葉生協 組合員活動室 板垣
TEL 0120-07-1613



申し込みされた組合員さんへは、締め切り後に各委員会の担当者からご連絡し、面談させていただきます。申し込みフォームには必ず、
連絡のとれる電話番号を入力してください。



お申し込みは
こちらから
ご応募、お待ちして
あります！

「商品評価委員会」



「産直委員会」

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告 (1月2週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	7,000
震災孤児を支援する募金 (910番)	19,700
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	11,700
合計	38,400

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。
WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。
一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

TEL 0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp

ホームページ



Facebook



Instagram

